

「教員志望」高校で囲い込み

高校で大学の教員養成カリキュラムを「先取り」する動きが出てきた。全国の公立学校では教員不足が深刻となり、各地の教育委員会が県境を越えて獲得競争を繰り広げる中、早期から有望な人材を教育界に囲い込むのが狙いだ。

(北瀬太一)

■いじめ問題も

4月に開校した大阪府立桜和高校(大阪市北区)には全国でも数少ない、将来の教員を育成する「教職教育コース」がある。大阪教育大や周辺の大学と連携して教育に取り組む。

高1の共通授業「教育探究I」は、15分間の短時間学習のアイデアを考えるなどして、相手にわかりやすく伝える力や話を聞く力を養う。高2で▽国際文化▽教職教育▽理数情報の3コースに分かれ、教職教育を選ぶと「教育入門」の時間で学校の働き方改革が

養成コース、「教育実習」体験も



印象に残る授業をテーマにグループで発表し合う生徒たち(大阪市北区の大阪府立桜和高校)

らしい問題まで幅広く学ぶ。高3では小学校に出向いて英語や理科を教えたり、児童とふれあったりする教育実習さながらの体験学習に取り組む計画だ。

1期生となる高1の計240人のうち、約半数が教員志望。6月下旬の授業で

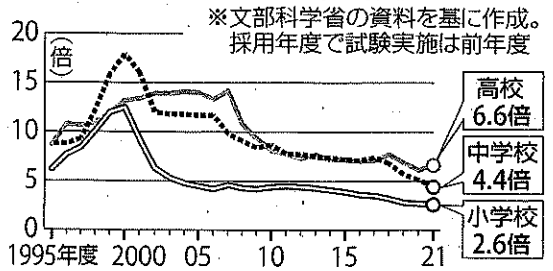
は約80人が4人ずつの班に分かれ、自分たちの印象に残る授業を議論した。「中学の先生が社会の時間に武將の姿に扮してくれて、人名や用語が覚えやすかった」などと具体的に説明。

松永こまちさん(15)は「中学の恩師のように、一人一

公立校 なり手不足深刻

公立学校教員の採用倍率の推移

※文部科学省の資料を基に作成。採用年度で試験実施は前年度



人の悩みに寄り添える先生になりたい」と意気込む。

府教委は「教員の道を選ぶ生徒を増やして、大阪の未来を担う人材を育てたい」とする。

同様の高校は奈良県や千葉県にも登場。横浜市立桜丘高校は来年度から「教員養成講座」を始める。他校の生徒も講座を受けられる仕組みを作るといふ。

採用試験低倍率

文部科学省の2021年度の調査では、全国の公立学校1897校で2558人の教員不足が明らかとなった。教頭が学級担任を務めたり、授業できない科目がでたりするケースも出ている。

都道府県教委などが20年度に実施した教員採用試験の競争倍率は、小学校が全国平均2.6倍(前年度比0.1増減)と過去最低だった。中学校も4.4倍(0.7増減)で過去2番目に低く、高校は6.6倍(同0.5増)とやや改善したが下落傾向は続く。

ベテラン教員の大量退職で採用枠が増えた一方で、民間企業の採用が好調なことが影響したとみられる。各教委の危機感は強く、小学校教諭の倍率が全国で最も低い1.4倍だった佐賀県は22年度実施分から、夏(7月)に1回だった試験を秋(11月)にも行う。

北海道は今年6月に大阪府内に試験会場を設けたところ、約3000人が出願。それでも全体の志願者は約2700人とわずかに減ったという。

兵庫大の山崎博敏教授(教育社会学)は「各教委の教員確保策は差別化が難しくなっている」と指摘。「高校生の頃からの教員養成の試みは他業界への人材流出を防ぐ意味でも効果的。学生が『教員になりたい』と思えるような学校改革も推進すべきだ」としている。

種池学・大環器内科学)体の欠損を重くすることは、治療時の判断の難しさを増やしている。線維化は他の臓器でもなっており、様々な病気の

病や開いたく、寿命が短がある。

チームは、失と心不全の英国の約50を解析した症のない細胞の上になるといふ死亡率が1ことがわかった。高血圧性心臓の高さだったチームは、集技術を使いY染色体を作り、心臓を人工的に心臓の状態を組織が硬くなすがY染色体を比べて過剰に低下。血液マクロファージ常になり、縮すたんぱくた。